

第五十三師団司令部略歴

昭和十六年十月一日ヲ第五十三師団編成下令せらる
師団諸部隊の編成地及完結日左ノ如シ

年月日	部隊名	編成地	部隊別称
昭(六)三(五) 六、一〇、五	第五十三師団司令部	京都	京都師団司令部 (安一〇〇一七)
六、一〇、五	第五十三歩兵団司令部	京都	中隊才三十五部隊
六、一〇、五 (八七、七三)	歩兵才二九連隊	敦賀	中隊才三十六部隊 (安一〇〇二〇)
六、一〇、五 (八七、七三)	歩兵才一八連隊	京都	中隊才三十七部隊 (安一〇〇二一)
六、一〇、五 (八三、三三)	歩兵才一五連隊	津	中隊才三十八部隊 (安一〇〇二二)
六、一〇、四 (八三、一〇)	搜索才五十三連隊	京都	中隊才三十九部隊 (安一〇〇二四)
六、一〇、五 (八三、三三)	野砲兵才五十三連隊	京都	中隊才四〇部隊 (安一〇〇二七)
六、一〇、四 (八三、三三)	工兵才五十三連隊	京都	中隊才四一部隊 (安一〇〇三〇)
六、一〇、五 (八三、三三)	輜重兵才五十三連隊	京都	中隊才四三部隊

年・月・日	部	隊	名	編成地	部	隊	別	称
昭二六・一〇・四 (二八・三・九)	才五十三師団	通信隊		京都	中部才四十三師団	(才一〇〇三三二)		

一 (ハ) は動員によるものを示す
 三 昭和十六年十二月八日大東亜戦争開始以降中部軍司令官の指揮下にありて師管内の防衛に任ず

昭和十八年十一月十九日動員下令十二月一日より着手 左表の如く部隊が設せらる。
 歩兵団司令部は解消す

年・月・日	部	隊	名	編成地	部	隊	別	称
昭一八・三・三	才五十三師団	兵器勤務隊		京都	安一〇〇三五			
〃	〃	衛生隊		〃	安一〇〇三六			
〃	〃	才一野戦病院		〃	安一〇〇三七			
〃	〃	才二野戦病院		〃	安一〇〇三九			
〃	〃	才四野戦病院		〃	安一〇〇四〇			
〃	〃	病馬廠		〃	安一〇〇四一			
〃	〃	防疫給水部		〃	安一〇〇四二			

才五十三師団行動の概要
 昭和十八年十二月二十五日南方総軍の直轄となり諸部隊を左の如く輸送す

梯団区分	編 合 部 隊	出 発 日 日	出 発 地	上 陸 日 日	上 陸 地	集 結 地
才一梯団	歩兵才一ニ八連隊一部 歩兵才一ニ八連隊一部	昭ハ三二九	宇 品	一五一一五	西 貢	西 貢
才二梯団	歩兵才一ニ八連隊主力 野砲兵才五十三連隊一大隊 工兵才五十三連隊一中隊 輜重兵才五十三連隊	八三三二九	門 司	一九二二二	西 貢	西 貢
才三梯団	才五十三師団司令部 才五十三師団通信隊 歩兵才二九連隊本隊及大隊 工兵才五十三連隊主力 才五十三師団防給四分の一 才五十三師団兵器勤務隊	一九一六	大 阪	一九一三九	昭 南	カオラロン アール

第4師団	野砲兵第53連隊本隊及大隊 歩兵第151連隊 歩兵第29連隊 捜索第53連隊	昭五三六	宇品	五.四.六	昭南	多ムルン アール
第5師団	野砲兵第53連隊大隊 第53師団衛生隊主力 第53師団第34野戰醫院 第53師団防給主力	昭五.八	中甸	出發後比島沖にて輸送船沈没同島に上陸せる事は確實なるも細部は不明なり		

年月日	概	要
昭五三七 五.四.七 五.四.九	師団全力の集結に先立ち総軍命令により南緬甸に前進を命ぜられ鉄道輸送を以て逐次爾時近に集結す 緬甸方面軍の指揮下に入る 第33軍の指揮下に入る	

年月日	概 要
昭 五 四 五	<p>軍命令に基き北緬甸「モール」附近に降下せる空挺部隊の攻襲を命ぜられ先ず「インドウ」附近に集結</p> <p>五月十日頃「モール」陣地を攻襲し之を北方に退却す</p> <p>師団長河野中将は病気のため転出し「三」代師団長として中將武田馨五月十三日着任す</p>
五 五 五	<p>「ホピン」附近に到着同二十三日「アナイン」の陣地を攻襲し之を占領す</p> <p>軍命令により「ミートキーナ」増援のため「ムクイン」より北進す</p> <p>二十九日頃同地南方五軒七一五橋梁附近に達し「ミートキーナ」を包囲せる敵に対し攻襲を準備す 此の頃敵は我後方「フーコン」及「モガウン」地区に於て作戦中の「オ十八師団（菊）」主力の側背「カマイン」方面に参透し来り、其の補給路を完全に遮断せんとするに至る</p>
六 二 〇	<p>茲に於て軍は戦線を整理する為、当師団の「ミートキーナ」攻襲を中止し反転す</p> <p>「オ十八師団」の側背を援護せしむ師団は軍命令に基き先ず「モウガン」に転進す</p> <p>「オ十八師団」の転進を援護す</p> <p>此の頃「オ十八師団」は「ラシオ」線沿線方面に転用を命ぜられ行動を開始せり</p> <p>師団正面に重圧の加わるに伴い「サーモ」「タウンニー」地区に転進、月末頃該地区に陣地占領を終り戦力の恢復を図り「印支」「ルート」の打通妨害に任</p>

年月日	概 要
昭二九、七、二六	<p>す 雨季漸く酷にして戦病の発生激化せり 更に軍命令によりコピンボウ、コホピン、コホピン、コホピンに 同地附近に到着す 鉄道線路に沿う地区に対する敵攻襲は逐次活発となる 師団は更に「モーハン」附近に於て持久を命ぜられ八月十日頃より一部を同地 に先遣し陣地を構築せしめ主力は「コピンボウ」より「コホピン」「モーニン」 「カド」の間にて逐次抵抗しつ、九月十日頃に「モーハン」陣地に配備を了 す</p> <p>一九十 「カーカ」附近に対する敵の行動活発化し師団は一部を急派し、我が右翼を掩 護せしむ然れども我が左翼たる「メザ」川河谷方面の敵の行動亦予期を許さざ る状況となるに「モーハン」陣地の不利を察せ「コピンウエ」附近に於て自主的 に持久を図るに決し十月十五日頃より準備を開始せるも十月二十日頃より敵の 真面目なる攻襲を受けるに及び抵抗を反覆しつ、十月二十五日頃迄に「コピンウ エ」陣地に配備を終る</p> <p>之より先師団は戦斗序列を以て緬甸方面軍の熱下に入らしめられ次々十月五日 又三十三軍（昆）の揮揮により又十五軍（林）の指揮に転移せしめらる当時又 十五軍は「インパール」作戰意の如く進捗せず戦線整理中にして師団当面の戦</p>

一九三〇

二〇

況の影響全般に及ぶ極め之重大なるにより師団の善戦を期待しあり十一月十二日頃より英オ三十六師団の一部我オ一戦に攻襲を開始し未リ十八日頃より激烈となるも死力を尽して之を拒止しつつありしが十一月二十八日に至リ一挙「マンダレー」に向う転を発令せらる

師団は主力を以てマコラチヤイン附近より「イラワチ」河を一部を以て「メザ」河を渡河し「イラワチ」西岸地区を南下「メレ」に於て再び「イラワチ」を渡河せる一部を一月初頭併せ掌握し爾後敵機団となり一月下旬「キヤウセ」マ「マ」ンダレー間地区に集結す

二〇、一一四

師団は望み「イラワチ」会戦計画に基き「マイクテイラ」附近の集結を準備中一月十日頃に至リオ十五師団（榮）正面「シングレー」及其の北方地区に於ける敵の渡河企画激化し急遽反転し先ず「マダヤ」附近に前進を命ぜられ次でオ十五師団の「タバイキン」方面への進出に伴い「シングレー」附近の守備を継承す夜敵の一部「シングレー」北方「メベイン」附近に於て渡河攻襲し来るや師団はオ十五師団の一部を併せ指揮し之が退還に任ずるも戦況急の如く進捗せず二月一日再び軍命令に依リオ十五師団と守備ヲ交代し「キヤウセ」ハミンポール間の地区に集結し軍の機動予備兵団となる

「イラワチ」河畔の戦機熟せるや軍は敵の主渡河正面を、我が中央兵団たるオ三十一師団（烈）正面にあるものと判断し之に対処するため師団を「ミヨサレ

年月日	概	要
昭三三	附近に招致す	
三三六	<p>師団は「ミヨサ」附近に逐次集結中、突如有力なる敵動部隊最左翼兵団たるオニ十三師団(弓)正面の「パコック」方面より渡河「ピンピン」附近を経テ「メークテイラ」に突入し来る師団は直ちに之が後続部隊阻止の軍命令を受け有力なる一部を残置(烈に配属せしめらる)し二月二十四日頃より「ミンヂヤ」に前進「タウインタ」北側高地一帯を占領し敵の阻止に勉む、三月一日頃より戦車を伴う敵後続部隊逐次増強し来り線又確保し難き状況となる</p> <p>再びオニ十三軍の指揮下に入り同夜転進に關する命令を受く</p> <p>転進の概要左の如く</p>	
三三六	二四〇〇を期し「タウインタ」出發	
四六	「マライン」を経「ヤナウン」に達す、戦車部隊と交戦	
四八	「ヤナウン」出發	
四八	「シンデ」河線占領	
一九	戦車部隊は突破「ラングーン」街道を南下中なり	
四三	「ピンマナ」着、戦車部隊と一部戦斗オニ十五師団と連絡成る	
四三	夜中、「ピンマナ」出發	
四三	「イエ」附近に於て「シツタン」河渡河	

2
の
外

3
0
タ

四三六 トングーレ東北地区に集結

四三九 軍命令によりヤーハ師団オ三三軍司令部オ五三師団、オ四九師団(狼)の順序

に「シツタン」河に沿う地区を南下

五八 「シツタン」防衛計画に基き「シユエジン」攻襲を中止し「カイウエ」附近に

進し「シツタン」河畔要点を占領し尔後の作戦を準備す

尔後「シツタン」対岸要点を七月上旬には「ミソチヨ」を占領之を強化しつ

尔後の攻勢を準備す

一方オ二八軍(狼)の厂史的転進を援護収容しつつありしが其の完了を俟つ事

なく八月十五日大命により作戦行動を停止す

~9~

歩兵第一一九連隊略歴

年月日	概 要
昭一五。五	部隊編成完結
	編成地 福井県敦賀郡 粟野村
	初代連隊長 陸軍大佐 浅野 庫一
	第五十二師団長の指揮下に入る
一五。三。四	軍旗親授
	部隊通称号 中部オ三十六部隊
一六。四。三〇	第五十六師団長の指揮下に入る
一六。一。一	第五十三師団新設と共に同師団長の指揮に入る
一八。二。九	臨時動員令下令
一八。三。一	動員実施オ一日
一八。三。三	動員完結
	通称号 安オ一〇〇ニ〇部隊(浅野部隊)
	連隊長 陸軍大佐 浅野 庫一
	連隊本部同直轄部隊(養動砲小队一、通信歩兵砲速射砲各一中队)
	第一乃至 第三大隊

<p>定員 将 九五、准下 三三八、兵 二四九五、計 三九一七 部隊行動の概要 其の一 輸送</p>	<p>八、三五 編成を完結せる連隊は、滋賀県高島郡饗庭野陸軍廠舎に移駐し訓練に専念す 五、一五 第五十三師団の第三梯団となり連隊 (第一、第二大隊及自動車の一部、馬匹全部欠く)は、南方戦線参加の目的を以て列車輸送により饗庭野を出発</p>	<p>一、八 三池丸(P.O. ILLA)能登丸(タタ機)乗船し、正午大阪港を出帆し、海路 大阪市浪花区港区に集結し、乗船を準備す 一月二十九日昭南港に到着、中兵營に入る</p>	<p>五、二八 コマラツカレ駐屯の命を受け二月十四日、自動車輸送及び列車輸送に依りコマ ラツカレにヤ十一中隊をコムアレコバトパンレにオ十中隊の一小隊をコタンピ ンレに天々配置して附近の警備及び訓練に任ず</p>	<p>三、一五 師団主力(当時クアラルシアル附近に在り)の緬甸進駐に在り連隊は残置し て、オ二十九軍(定集團)司令官の指揮に入る 三、一〇 四月二日に至る間、オ三大隊主力はコセンピランレ諸島及コパンコール島の 樹定作戦に参加す</p>	<p>三、二八 内地に残置しありし部隊はオ二大隊長辻少佐の指揮を以て宇品港出帆</p>
---	---	---	---	--	---

其の二、コマラツカレ駐屯警備

(自 昭一九三二(四)
 一至 昭一九三五(三))

年月日	概 要
昭二九四、一七	昭南港に上陸す
四、二〇	第一大隊長 野中大尉の指揮する重火器部隊（第一歩兵小隊、オニ核閃銃中隊、速射砲中隊）を編成し昭南及コクアラランブルレより空輸により出発。緬甸に至り同方面軍司令官の指揮に入る 其の三、コモガウンレ、コミットキイナレ附近の戦斗 （自昭、一九五、四 至昭一九、七、四）
四、一五	連隊は緬甸方面作戦参加の命を受け五月三日より行動を開始し、コタンピンレより鉄道輸送の準備を為す。昭南にありしオニ大隊を併せ指揮しセケ列車を以て五月四日より逐次前進。泰緬国境通過の時（昭和十九年五月十二日）を以てオニ二十九軍司令官の指揮を脱し緬甸方面軍司令官の指揮に入る
六、二	オニ大隊は昭南港出帆。六月六日、西貢に上陸。主力に追及す
六、四	連隊主力はコマンダレーレに到着。同日よりオニ五十三師団長の指揮に復帰し、北緬に向い、急進す。但し、オニ大隊はオニ三十三軍司令官の指揮に入り主力と離れてコラシオレ方面の作戦に参加せり
六、二六	連隊（工兵）は馬匹をコインドウレ附近に残置し、コサーモレに到着。直ちに師団主力の戦斗に参加す。主力を以て東部コパホックレ附近を確保し、オニ八師団（騎）及歩兵オニ二八連隊の收容に任ず。オニ九中隊（一小隊）はコモウガ

昭
五
七
八七

八五

ンレ附近に在りし歩兵百二十八連体に配属、オニ機関銃中隊及オ九中隊一小隊ハ、サムカンレ高地附近に在りし山本大隊に配属され同地附近の確保に任ず本期間に於ける損害左の如し

戦死 将校六、下士官一四、兵 一二六 計 一四六

戦傷死 兵 七 計 七

戦病死 兵 八 計 八

総計 一六一

其の四 ト断レ作戰

(自 昭和十九年七月五日 至 昭和十九年十月四日)

トパホックレ附近を確保せる連体は、七、八両日に巨り敵の反抗を拒止し収容任務を終了し、八日夜トサーモレ河附近に転進の命を受く、オ十中隊一小隊(高橋少尉後大方少尉と交代)を以てトサーモレ西北方約二軒三又路に位置せしめ、主力はトサーモレ河の線を確保す、爾後三又路前進陣地の重要性に鑑みテ、374 1A0) を増加し田村大尉之を併せ指揮し極力敵の攻襲を拒止す、敵は係行機に依る爆襲、銃砲弾を以て執拗なる攻襲を繰返し、其の都度之を挫折しありしが、八月四日拂曉に至るや強大なる重爆襲と砲襲を以て総反抗に出で大方小隊、六人部小隊の大部損傷し辛うじて其の一角を確保す、連隊は転進の命を受け翌六日夕刻よりオ十中隊をトデオンズレ附近に残置

13~

年月日	概要
昭五七二	<p>シ之主カ以て先ヅッピンボウレ附近に逐次転進を開始す 是より曩ヤニ大隊はコタウンニレに追及到着し師団直轄として後方輸送に任じ あり</p>
八七	<p>復帰せるヤニ大隊を併せ指揮し山本大隊を以てコタイクワゴンレに前進、陣地 を占領せしめ主力を以てコピンボウレコインジゴンレの線を確保して逐次陣地 の増強に努む</p>
八三	<p>頃より敵の一部は前進陣地に攻襲し来り、戦斗次ヤに熾烈となり、八月一七日 前進陣地は後退の止むなきに至る 主陣地も亦、八月二十五日以來、砲行機の重爆重を受け工事施設の一部、破壊 せられ、死傷続出す</p>
八三	<p>然れ共、ヤ一線は数回に亘る夜襲と敵斗に依り敵の攻襲を挫折せしめ、師団主 カのヤニ線陣地確保の余裕を与う</p>
九六	<p>師団命令に依リ夕刻より逐次部隊を集結、夜半行動を開始し、ヤ五中隊をコナ ムクインレに、ヤ七中隊をコアランボレに残置し、主力はコモーハンレに転進 し九月四日、同地に到着、陣地占領に着手す 同地に於て將校以下のヤ一回補充員を受領し戦力を恢復せり</p>
到着	<p>特別補充 兵 一三 計 一三</p>

年月日	概 要
昭五、二、一六 一、二、三。	<p>る反襲を繰返して挫折せしめつつ主陣地に徹収し、愈、十一月十二日頃より敵の真面目の攻襲を受け戦斗は、益々熾烈を極む</p> <p>本道方面のオー線は間断なき砲撃と銃爆襲を受けつつ敢斗し克く拒止に努めたるも敵は更に我が陣前に円形陣地を構築し之れを據点に肉迫し来りたるを以て連隊は十一月十四日夜半、主力を以て反襲に出で翌十五日攻襲を決行す</p> <p>然れ共、敵の抵抗、頑強にして、彼我遂に七、八十米の至近距離相対持したる終、攻襲頓挫の状態に入る、茲に於て敵の補給路を遮断すべく、十五日夜、攻襲方向を変更し、敵の背後より攻襲を復行し二夜に亘り深く敵中に潛行し、彼我共に、補給孤立の状態の終、奮戦し遂に十七日、敵を襲退せしむ、</p> <p>斯くして約一ヶ月、持久の目的を達したる連隊は將兵の健斗と軍旗の御蔭威に依り兵団全般の作戦指導を容易ならしめ後日、兵団長及び、軍司令官より、部隊賞詞を授与せらる、</p> <p>連隊はコペンウエより転進を命ぜられ一部を残置し、主力は夜半より集結、逐次転進を開始しコナバレに向い前進す</p> <p>連隊はコナバレ出発、コテジヤインレに向い前進す</p> <p>コテジヤインレに於てコイラワジレ河を渡河準備し、十二月五日夜、コミヤダレに渡り爾後コイラワジレ河左岸を南下す</p>

4の外

昭五三三七

「タガウン」に到着 同地に於て、オニ大隊（仲欠）を師団直轄たらしめ、主

力は「マンダレー」に向い転進を続行
「オンバイン」を「ミングル」を経て、昭和二十年一月八日「マンダレー」に到

着せり
「ピンウエ」に於てオニ回以後の補充員を受領し戦力を恢復す

十月二十日到着 オニ次補充の残部 将四、下五 兵一九六 計一七八

十月二十八日到着 オニ次補充の残部 将四、下二、兵八五 計一九〇

十一月九日到着 オニ次補充 将六、下二、兵一〇九 計一七七

本期間に於ける損害左の如し

戦死 将一五 准二 下二五 兵一五二 計一九四

戦傷死 将六 下九 兵三四 計四九

戦病死 将三 下二四 兵二八四 計三三二

生死不明 下二 兵三 計五

総計 五五八

其の六 「イラワジ」河畔並「マイクテイラ」附近会戦

(自昭二〇、一一一 至昭二〇、三、二八)

昭二〇、一一二

「ミングル」方面の戦況急迫に伴い連隊は師団命令により、自動車輸送を以て

同地に反転「ミングル」以南の確保に任ず

年月日	概	要
昭三〇、一、四	<p>夜頃より敵の一部は「シングレー」北方「グバイン」附近、オ十五師団（祭）正面に渡河し歩兵オ百五十一連隊及歩兵オ六十八連隊の間隙に向い攻襲に来る。</p> <p>連隊（独立工兵オ二十連隊一小隊及祭工兵一小隊属）は「シングレー」支隊となり「シングレー」南側附近を確保し敵の渡河拒止に任じありしが「グバイン」附近の敵は逐次兵力を増加し祭兵団及歩兵オ百五十一連隊の奪回意の如くならず、茲に於て一月二十二日「クレ」北方高地の奪回攻襲を連隊に命せらる。</p> <p>先ずオ三大隊主力を以て本攻襲を決行せしむ。</p> <p>一、二三 夜、オ三大隊は「クレ」に前進、二十三日拂曉同高地南側より力攻し之を回復、「バコダ」の線に進出せるゆ、敵の砲火熾烈にして工事不能の岩山なるため、死傷続出し止むなく東北方高地に據り、更に攻襲再興の準備をなす。</p> <p>一、二四 再びオ二回攻襲を敢行せざるも、依然敵の抵抗は頑強なりし為一月二十五日小坂大隊の増援を得て、全力を以て同夜、オ三回の攻襲を決行、僅か一角を占領保持す。</p> <p>一、二五 久らく「龍陵」方面に配属中のオ一大隊復讐し来り、戦力を恢復し之の一部を以て「シングレー」「シユエレ」附近を主力を以て「クレ」北方高地を確保せり。</p> <p>（注） 自、昭三〇、一、六、四 至、昭三〇、一、三、四 間、オ一大隊行動概要本文末尾追記の如し。</p>	

5
ク
ト

三四

師団主力の転進に伴い、連隊はオ十五師長の指揮下に在りて依然前任務を続行す。

三七

敵は熾烈なる敵倭行機の銃爆連、砲連と呼応して戦車十数輛を伴う地上部隊を以て「クレ」部落に南下攻襲し我がオ一線敵陣にも拘わらず同部落に侵入す。茲に於て連隊は該部落に進入せる敵を與退すべく夜襲を取行するに、一部を東方高地に残置し主力を以て「クレ」部落に出襲す。

本夜襲により一部を残したる終、天明となり八日に及ぶや敵は更に歩戦砲倭の増加兵力を以て総反抗に出る、オ一戦は之が拒止喪滅に努めたるも死傷続出し連隊長 浅野大佐、オ一連隊長、野中少佐と相次いで父子相抱くが如き壮烈なる戦死を遂げらる。

此の時既に連絡全く絶之、東北方高地も敵手に陥ち残存將兵、單旗の安否を気遣い、單旗の許に集結す。

昨十九年十二月以来、師団直轄となり転進の最後尾を担当せるオ二大隊は爾後祭兵団に配属せられ遠く北方に在りしが二月九日未明「クレ」附近に到着、爾後大隊長、辻少佐、連隊長代理となり残存せる將兵を指揮す。

三九

夜、連隊は師団命令により主力を以て「シンガー」に転進、十日、同地を確保南下する。敵を拒止す。

四二

更に「コシユエレ」「カンパ」の線を確保すべき命に接し同地に転進、十七日返

年月日	概要
三三	<p>に同地によりて確保拒止に努む</p> <p>爾後「ジビゴン」「インマ」湖附近を逐次確保し、南下する敵を拒止、輿滅に任じありしが「メイクテイラ」附近の戦況急迫に伴い三月一日、「オ十五師団長の指揮を離れ「オ十五軍司令官の直轄となり「マングダレ」方面に転進を命せられる</p> <p>連隊は自動車輸送により「マングダレ」に到着するや「オ十八師団（菊）の「マングダレ」附近の進出掩護の任務を受け直ちに自動車輸送に同地に急進、五日同地を確保す</p>
三六	<p>「オ十八師団長同地到着と共に其の指揮下に入り「メイクテイラ」係行場攻陥戦に参加す</p> <p>「オ三大隊（連隊砲一分隊属）は菊兵団直轄となり「マングダレ」西方高地を確保し師団の右側掩護に任ず</p> <p>連隊主力は「オマトエ」係行場を経「ターパン」に前進同地を占領爾後「マングレ」道上四哩附近に攻襲陣地を推進す</p>
三五	<p>「ニンヤンデ」に転進、同地を確保、逐次「メイクテイラ」に対する包圍圈を圧縮し「メイクテイラ」東係行場の北角ヨリ同係行場に対戦車據点を推進し敵の係行場使用封殺に任ず</p>

三三三

オ二代連隊長 羽賀大佐着任し連隊を指揮す
肉薄攻襲と射戦車火砲を中心とする各據点は連日猛烈なる反襲を受けたるも將
兵の敢斗に依り敵戦車撲滅の成果を挙げ東條行場の使用を完全に封殺す
後日 オ十八師団長より部隊賞詞 肉攻兵に対する個人賞詞を受く
本期間に於ける損害左の如し

戦死	持校一二	准三	下一七	兵一六六	計	一九八
戦傷死	將四		下二	兵一一	計	一七
戦病死	將二		下四	兵三四	計	四〇
				兵	計	二五五

其の七 コシヤン州及コマンガレ州沿線方面「克」作戦

(自 昭二〇、三、二九 至 昭二〇、五、一四)

三三三

師団命令によりオ一線部隊を逐次集結コサジレ東北方地区に転進 更にコヨゾ
ンレに転進弓兵団補給路の打通及確保の命を受け一部(オ三大隊)を「キエガ
ン」に主力を「タンドウ」に配置し、七日迄同地の確保に任じたるも「サジレ
」附近の敵情により直ちに「ラインデ」に転進を命ぜらる。

四三三

同地に於てオ三十三軍司令官の直轄となり鉄道線路及本道に沿い南下する。敵
機甲部隊の前進を拒止すべく山往道を昼夜兼行「マゴジン」に向い急進す
「シゴン」北方地区に到着 病兵団長の指揮下に入り忠兵団の一部を併せ指揮

二八

年月日	概	要
昭和三十七	<p>シ、本道上「シンテ」河の線を確保、軍主力の收容に任ず 「ヤメセン」南方地区を確保しありしが十八日「ピンマナ」に転進を命ぜられ 逐次部隊を集結、鉄道線路に沿う地区を旧道を経、確保、敵の突進を拒止する と共に、菊狼両兵団の收容に任ず</p> <p>忠兵団同地到着を以て該兵団長の指揮に入り前任務を続行す</p> <p>夕、師団命令により先ず「エラ」に転進、四月二十四日「エラ」西南方に於て 「シツタン」河を渡河し、左岸地区を「モチ」街道の線に向い前進す</p> <p>転進中離れたる「ヤ」大隊を掌握し二十八日「モチ」街道北側地区に集結す</p> <p>同街道八哩半地点に於て安兵団の指揮に復返</p> <p>「シユエジン」に向い南下す</p> <p>途中「モン」河の線より「ヤ」大隊を師団直轄先遣隊たらしむ</p> <p>「シユエジン」北側に進出、ヤ十八師団山崎連隊と交代し「シユエジン」に対 し攻勢陣地を占領す</p> <p>本期間に於ける損害左の通り</p>	<p>戦死 将二 下四 兵一七 計 二五</p> <p>戦傷死 兵二 計 二</p> <p>戦病死 兵三 計 三</p>

生死不明 将一 下三 兵九 計一三

総計 四三

五二七

其のハ、コシツタンに作戦（自昭ニ〇、五、一五、至昭ニ〇、八、三一）師団転進に伴い、オニ大隊を師団直轄として「ザウデキユンゴン」コウインカネ」を確保せしめ主力は「ウインガン」に向い前進す

五二八

「アカイク」に前進し、兵団左翼隊とし「マシツタン」河左岸地区に陣地占領一部を対岸「オポ」に進出せしめ「前岸據点」たらしむ

五三〇

「オニ」大隊を「イワレ」附近に残置ち師団直轄たらしめ、主力は「ザロギ」に至り同地附近の防禦陣地を構築す

六二八

歩兵「オニ」八連隊到着と共に配備を交代し再び「アカイク」に転移し、「オニ」大隊を併せ指揮して左翼隊の任務を遂行す

軍命令により師団は「ミイ」チヨ」攻略の為、六月三日より行動を開始す。連隊は師団主力の攻襲に呼応し「マ」ボン「パン」アナウク」攻襲の命を受け三十日夕刻行動を開始す。敵機の銃襲により渡河船艇を沈められる等、幾多の悪條件を克服して先ず「オポ」に渡河し、引き籠り、夜間行動により深水胸を没する湿地帯を前進し、拂曉「バカン」に進入、攻襲準備をなす

一二〇。頃より敵の砲襲により攻襲準備妨害を受けたるも損害なく、同夜猛雨を冒して攻襲前進を開始し、三日拂曉所命「ボン」パン「アナウク」に突入、同地

年月日	概	要
昭二〇七三	<p>を確保す。〇七〇〇頃より「レンズ」方向より、又二二〇〇過ぎより西方の増援逆襲ありたるも之を裏返し「ミイチヨ」の敵に対する退路を遮断せり。</p> <p>夜半、師団命令により、現陣地を撤し原態勢に復讐するため「オポ」に移動、一部を「タンゴン」に位置せしめ同地を確保す。</p>	
七、六	<p>一部を「オポ」「タンゴン」に位置せしめ搜索新込の確保ならしめ、主力は「アカイク」に復讐し、「シユエジン」南方地区に進出し、策集団の收容を命ぜらる。</p> <p>仍マ「オ」大隊を現態勢の終残置し、主力は先ず「タパンゼーク」に向ひ前進す。</p>	<p>第二次作戦を準備</p>
七、三	<p>途中、^{Ⅲ/28i}（平野大隊）を配属され「ドンゼーク」対岸を掃蕩確保せしむ。</p>	
七、三	<p>「タパンゼーク」到着と共に、「オ」大隊を復讐せしめられ、「オ」三大隊を以て「シユエジン」東北側附近を確保せしめ、転進掩護の隊勢を整えたり。</p>	
八、三	<p>策集団先追隊を捕捉し、爾後逐次該集団を收容して八月中旬、概ね完了す。</p>	
八、三	<p>全軍に亘り停戦の大命を拝し、悲運の涙を吞んで戦闘行動を停止す。</p>	
八、三	<p>「ウインガン」附近に集結を命ぜられ、同地に向ひ行動を開始し、三十一日、集結を完了す。</p>	
戦	<p>本期間に於ける損害左の如し</p>	
死	将三	
下五	兵二二	
計	三一	

6
の
外

<p>戦傷死 将一 兵二 計三 戦病死 将一 下一 兵二八 計三〇 生死不明 兵三 計三 総計 六七</p>	<p>其の九 連合軍収容</p>	<p>昭 二九 九 八</p>	<p>「ワインガン」に集結と共に諸物品を受領、爾後の行動を準備す 「ワインガン」出発 「トネズ」に至り同地に於て兵器引渡しを為し、二十 四日同地出発 「タウンズ」に到り、二十六日「モパリンコリン」に移駐、連 合軍に収容さる</p>	<p>九 三 九</p>	<p>該地に於て暫く英軍作業に従事しありしが、「モパリンコリン」出発 「シツ タン」河渡河、「ロウ」一泊後翌三十日「パヤジイ」に移動す 同地に於て英軍の指示する労務に服す</p>	<p>二 二 一</p>	<p>「パヤジイ」より「ラングーン」 「アロン」収容所に移駐し専ら連合軍の指示 する作業に従事す</p>	<p>二 二 七 〇</p>	<p>師団は内地飯還復員の為、先発者を内地に派遣することとなり、橋大村、松浦 准尉の二名を先発隊長師団高級副官辻少佐の指揮により昭和二十一年六月二十 三日「ラングーン」出発 宇品に上陸し主力飯還の準備及整理に任ず</p>
---	------------------	-----------------	--	--------------	---	--------------	---	----------------	---

二二七〇

歩兵 第百二十八連隊

歩兵 第百二十八連隊 行動概要

昭二八二一未

將校職員表別紙の如し

動員下令せられ十二月一日動員ヤ一日、十三日、動員完結す

師団は南方軍総司令官の隷下に入らしめられ十二月下旬より逐次南方に向い輸送を開始、又連隊は陸軍大尉貫井兵吉以下一八五名ヲ師団の先発隊として、先づ内地を出發せしむ

連隊主力は 1/3A 1/3P 1/3T 1/3S 1/3B0 を屬せられ師団ヤ一様団となり其の輸送の概要左の如し

（兼船月旦）
八三一九

八三三九

梯団	部	隊	名	地点	上陸年月日	地点
先発隊	1282	一八五名		字品	一九一五	西貢
梯団 (イ)	5EII	配屬部隊		字品	一九二〇	西貢
梯団 (ロ)	III	配屬部隊		門司	一九三、五	西貢

連隊は 1/3A 1/3P 1/3S 1/3B0 PD を屬せられ岡田支隊と称し印度支那駐屯軍司令官の指揮下に入らしめられ西貢周辺地区に駐屯し同地附近の警備に任し傍、教育訓練を為し戦力の培養に努む、当時師団主力は逐次マライ半島に集約しつつあり。

年月日	概 要
一九三四年 三月中旬	<p>ビルマ方面の戦況に鑑み、師団はビルマ方面軍の指揮下に入らしめらる。連隊亦師団に復帰を命ぜられ急遽、三月下旬より数ヶ師団に分れ「アインペン」ヲ橋谷ヲを経てビルマに向い輸送を開始す</p> <p>連隊は「マンダレー」に集結を完了し北緬「モール」附近に降下せる空挺部隊攻夷及菊兵团(88D)方面戦局打開の任務を承け逐次鉄道により「インダウ」に輸送を開始す</p> <p>尚且(屬々)を「ラシオ」方面に分派し龍兵团長(88D)の指揮下に入らしむ</p> <p>「モール」の戦斗</p> <p>連隊は「インダウ」に集約を完了し同日頃より「モール」敵空挺部隊陣地攻夷のため行動を開始し攻夷準備、位置に向い前進中「ナツコキン」へ「モール」東南六軒附近に於て敵挺進部隊と不期遭遇、ヤ一大隊、特にヤ一中隊の勇戦敵斗により敵に相当の損害を与え、之を撃隊爾後「モール」主陣地の敵心我が新銳の進出に恐れをなし遂に陣地を放棄するに至る</p> <p>「ホピン」の戦斗</p> <p>「モール」攻略後引続き「ホピン」附近に降下、陣地を構築せる敵空挺部隊を攻夷すべき命を受け同地に向い急進、五月二十三日頃より該敵を力攻し、損害甚からざりしも三次に及びたる突夷実施に依り二十五日、遂に之を撃滅し、莫</p>

P57へ

~28~

1737

工兵第五十三連隊略歴

年月日	概	要
昭六十七九	臨時編成下令	
十一	動員第一日	
十一	完結	
二五	興村大尉の指揮する第三中隊及器材小隊の一部七營出發	
二九	門司港出帆(第五十三師団第一師団長歩兵第百二十八連隊長岡田大佐)	
一九一五	連隊長田中中佐の指揮する連隊主力七營出發、同日大阪に集結す。	
一八	大阪港二十日門司港夫々出帆(第二師団ト。基幹)	
二九	昭南上陸同日「パセルパンジマン」に集結	
三四	「パセルパンジマン」出發列車輸送を以て「セラングール」州「クラン」へ前進、但器材小隊東部隊は直行す。	
一四	連隊は興村大尉指揮部隊を除き「クラン」に集結完了す。	
三	第五十三師団司令部は「クアラランフル」に位置す。 其後五月出發迄定集団(第二十九軍)の指揮下に在りて教育訓練に専念し主として密林交通作業及重架橋築城を訓練す。 第五十三師団は緬甸方面軍の指揮下に入り三〇日師団司令部は「クアララン	

年月日	概要
昭十九四二六	フルルを出発す。連隊は山本曹長以下三名を設営の為「ビルマ」「モートル」に先行せしむ。
五	連隊長田中中佐（将校に帯同）飛行機に依り「ビルマ」へ先行を命ぜられ出
五	発。茨岡大尉の指揮する連隊主力は第一梯団、二日第三梯団、三日夫々「クラン
五	を出発「ビルマ」に向い、鉄道輸送す。
五	馬恭口境通過
十	恭緬口境に通過。器材小隊車両部隊は「ノン」アラドックレより「モートルメイ
一四	ン」間恭緬道路を陸行す。
一三	主力は「モートル」メインに概ね集結を完了し、其後の輸送を準備す。
一三	連隊長田中中佐は四日「ビルマ」「インドウ」に於て與村大尉の指揮する部
一三	隊を掌握す。之より先與村部隊は師団第一梯団に属し
一三	上海着
一三	同地出發
三	「サイゴン」着。其後恭國を經マ
四	恭緬口境通過「モートル」の敵空挺部隊攻撃の為行動を準備しありたり。
七	「モートル」陣地攻撃の為の行動開始

昭九 四一三

敵退却の為再び「ホピン」に向い前進す

二一

本前進間工兵隊は終始師団の先頭を前進し 前道路の啓開補修に任ず
「ホピン」敵陣地攻惠準備中 奥村大尉戦死す

二六

連隊は歩兵第百二十八連隊に配属せられ 二十三日より陣地攻惠開始
工兵隊は主として突蕪路の開設側防機能の破壊及送襲阻止に任じ偉功を奏す
同陣地奪取

二九

師団は「ホピン」陣地奪取直後「モガウン」附近を占領すへき命を受く
連隊は先づ師団の「ナムフイン」河渡河に任じたる後
行動開始

「モガウン」西側地区に前進し 同地に於て「モガウン」河北側及東側守備
部隊の渡河に任ず

六一〇

一方「モールメイン」に集結完了せる連隊は緬方司令官の命令に依り特
大尉の指揮する第一中隊（第三小隊欠）を「ウ」号作戦参加の為 十七日「
インパール」に向い前進せしめ 其後の主力は十八日連隊に追及の為前進を
開始し「マングラト」に到着 逐次前進を続け 連隊本部指揮機関は

六一九

「モガウン」に於て連隊長の指揮に復す

六一〇

其の他は「モールマン」に於て連隊長の指揮に復帰途の間前進途中「メザ」渡
河点に於ける渡河作業等に任ず

年月日	概要
昭九、六、二	<p>師団は敵空挺部隊に包圍攻襲せられある「ミツチナ」を南より突破攻襲すべき命に接し、逐次前進を開始す。</p> <p>連隊（ノ、ニ器欠）は其の「モガウン」河渡河に任じたる後、主力は六月八日攻襲準備の位置に着く同時に入江小隊をして依然「モガウン」河の渡河に任せしむ。</p> <p>師団は「ミツチナ」攻襲を中止し「モリウン」西側地区に転進を命ぜられ行動開始。</p> <p>連隊（ノ、ニ器欠）は工兵第十二連隊の一中隊を併せ指揮し、師団の「モガウン」河撤退渡河作業は兩期初の増水と敵の空陸の反攻急なるに依り、前線部隊との連絡意の如くならず、加うるに舟艇不足と夜間作業にて困難を極む。</p> <p>師団は第十八師団の転進に伴い、陣地を「サーモ」の線に占領して敵の攻襲を阻止すべきを命ぜられ、之に伴い部隊は「シューマイン」に転進集結し、主として「パホック」「サーモ」間の道路補修及湿地通過作業を実施引続き部隊は「サーモ」「タウンニー」に転進し、「サーモ」「タウンニー」間の湿地通過作業、主として自動車及野砲の後送を実施す。</p> <p>師団は更に「モリウン」附近に陣地を变换すべきを命ぜられ転進開始。</p> <p>連隊は追及せる第二中隊の日垣小隊を「ナムクイン」に前進せしめ、「ナム</p>
二	
三〇	

昭九八

二。

クイン河の恙者砲 自動貨車等の後送渡河に任せしむ
其後 連隊は追及部隊及転進部隊 逐次合流し 第三中隊は九日より「ホビ
ン」附近に於て鉄道隊に協力 応急鉄道橋架設作業を実施し恙者及重量物件
の後送を促進する作業に任じ 又追及せる第二中隊主力(「マク」)を以て「モ
ーニン」附近の前進陣地占領の作業に任せしむ

連隊長は「モーハン」に到着 浜岡大尉の指揮する追及部隊主力を掌握し
前述作業の任を終了せる部隊逐次「モーハン」に集結す

其後連隊は「モーハン」に位置し 同地附近の師団陣地構築作業架橋及鉄道
による臂力輸送等に任ず

九

連隊主力は九月末「ナンシマン」に転進集結 同地に於て「ナンシマン」橋
梁及「モール」の橋梁復旧作業に任ず

十二

師団は第十五軍の指揮下に入り盤作戦開始せらる
連隊は「ナンシマン」に於て前任務を続行すると共に「イラワジ」河 水路
輸送に関する諸準備を実施す

「ウ」号作戦に参加しありし第一中隊の残存部隊は九月二十七日「ナンシマ
ン」に於て復帰す

五七

「ウ」号作戦参加の為「インパール」に向いたる第一中隊(第三小隊欠)は
後山本支隊に属し 印度「パレル」の攻奪に参加

年月日	概	要
六 五	<p>同地一本木高地附近の戦斗に於て支隊の第一線最右翼部隊として奮闘したるも遂に敵の砲爆薬の爲中隊長以下中隊幹部の全部戦死し。七月「クアラルンフル」兵器廠の警備の任を解かれ、中隊主力に追求め「カレワ」附近にて道路作業に任じありたる第三小隊が中隊の残存部隊として漸く復帰したるものなり。</p>	
十	<p>雨期漸く末明になるや敵の進攻は活発となり、師団は「ナバ」「ピンウエ」附近に転進集結。十月末「ピンウエ」「オクトラ」の線に防禦陣地を構築し、十一月に入るや彼我決戦に入る。</p>	
十 三	<p>連隊長、田中中佐「マリア」により入院</p>	
十 二	<p>連隊は第二中隊を師団第一線の戦斗に協力せしめ又第三中隊を「イラワジ」河水路輸送に第一中隊を後方補給路の補修及予備とし、連隊本部は「ナバ」に位置す。</p>	
<p>第二中隊は主として敵の後方攪乱の爲挺進隊を編成して克く第一線部隊の戦斗に協力す。</p>	<p>第三中隊は「カーサ」に位置し、主として弾薬及糧秣の「テジャイン」への輸送（後送）「イラワジ」左岸守備部隊の渡河、補給に任ずる外師団将来の一挙転進の爲の舟艇の蒐集整備に任ず</p>	

第一中隊主力は「インドー」附近より「メザ」を経て「テジマイン」に到る道路の自動車道に改修す。

師田は約一ヶ月の間「ピニウエ」附近の「ジマンクル」戦に於て敵を拒止裏破し大なる戦果を収めたるも二十八日命に依り後退するに決し同日夜「ナバ」に集結す。連隊は一部一尉の指揮する約一小隊を以て転進路に地雷の敷設して敵の前進を極めて有効に遅滞せしむると共に主力は「テジマイン」附近に集給し左記部隊を配属せられ「イラワジ」河の水路輸送に任ず。渡河材料第十四中隊
折疊舟 二〇

第三特設水路輸送隊第一中隊

民 艇

三〇

連隊本部は「テジマイン」に位置し水路及陸路到着す。

砲弾薬 糧秣 患者等を逐次「タガウン」→「チンニマ」→「メレー」

「セペネコ」→「タバキン」→「シンク」へ進運輸送を実施す。

連隊は「ピンウエ」附近の決戦開始せらるるや器材小隊をして連隊兵器及隊貨等を「マンタレー」への後送に任せしめたるも十一月三日「メザ」渡河点に於て爆害を受け其の大部を喪失せり。

師田主力は予定の通り「インドウ」より「メザ」の線を経て「テジマイン」に逐次転進し十五日頃其の主力は「テジマイン」附近に於て「イラワジ」左岸に渡河す。

年月日	概要
昭三・一 四 八	<p>「テジマイン」に於ける師団後送物件及患者は十七日全部終了す。</p> <p>「テジマイン」に於ける水路輸送及師団の渡河は師団の作戦遂行上極めて重要なる工兵作業なりしも器材舟艇及人員の不足を努力にて補じ、円滑に実施し得たり。特に自動貨車の後送は約半数（一〇台）を「ドラム」缶の筏を利用。漕手現地苦力し。他は坪田少尉の偵察発見による自動車道に依り「タガウ」ン」への最短距離より左岸に渡河せしめたり。「テジマイン」附近に於ける渡河の末期第一中隊は師団主力の前進路へ「イラワジ左岸」迄開の急師団直轄として使用さる（「シラクル」に於て復帰）。「イラワジ」河右岸に機動中なりし歩兵第五十一連隊は十二月二十八日「メレ」に於て「イラワジ」河を渡河せしめ師団主力に合せしむ。</p> <p>連隊本部は「セペネコロ」へ「メレ」対岸」に於て正月の遙掛式を行う。</p> <p>水路輸送物件の「ミンク」近への輸送を完了し配属。</p> <p>渡河材料中隊及水路輸送隊を原所屬に復帰せしむ。</p> <p>同時期師団第二機動を概ね終り師団の大部は「マンタレー」附近に集結す。連隊の大部は「アマラフラ」に集結を完了し「メイクテラ」附近への第三次機動を準備す。</p> <p>時に連隊長田中中佐退院して同地にあり、八日以後陸路</p>

士末

十

「マンタレー」に転進しありたる器材小隊をも併せ指揮す。

第五十三師団は第十五師団と連繫し、「マタヤ」北方に於て「イラワジ」河左岸防禦の任を受け、同日より行動開始。連隊は十二日「マンタレー」出發「マタヤ」西北方「トンデール」を中心とする「イラワジ」兩岸地区の防禦配備に就き、敵の「イラワジ」河渡河企圖の偵知並に妨害に任ず。

敵は中旬「チヨームウ」より「イラワジ」河を渡河し、拠点を左岸に占領せり。

師団は之が撃退に努めたるも敵は逐次兵力を増強し、其の正面を拡大す。

其後敵の空陸よりする猛攻は続けらる。

師団は其の任務を第十五師団に委譲し「メーカーテラ」方面の作戦準備の爲前進す。

二四

連隊は同日以降第二中隊（ミズノ）を本属師団長の直轄たらしめ、主力は第十五師団長の指揮に入り、依然前任務を続行す。

当時の主なる配属部隊左の如し

歩兵第二百二十八連隊第九中隊

野砲兵第五十三連隊の一中隊（野砲）

渡河材料第十四中隊の一小隊

連隊は右は△山高地より左「セーマガ」南側に恒る地域に於て果敢なる新必

年月日	概要
十二	<p>を実施すると共に深く敵情を搜索して敵の企図偵知に努めたり。 △(コ)デッセン(ル)を確保しありたる第一中隊主力は敵の猛攻を受け中隊 長西中尉以下玉碎す。 敵は攻襲の重点を「シンブー」より「マダヤ」街道に沿う地区に指向し、第 十五師団は逐次圧迫を受けつつ善戦す。 之に忖慮し支隊正面「コ」デッセン「ダ」マガ「ル」方面の敵の行動も逐次活発と なりたるも支隊の艇進隊の損察及斬込各々効を奏し、支隊正面よりの敵の渡 河は実施せしめず。特に入江艇進隊(入江少尉の指揮する小隊)は「イ」ラフ 「ジ」河右岸「イ」ネモ「ル」附近にて敵部の敵を斬込退却して師団長より賞詞を受 く。</p>
三六	<p>原師団復帰の命を受け、戦場彼我混乱の内に支隊の任務を歩兵第五十六連隊 に委譲す。</p>
三六	<p>先づ「コ」マンダ「ル」に伺い転進す。</p>
三一	<p>水路輸送隊及左側支隊としての功績により師団長より賞詞を受く。 原師団復帰の命を受け戦場彼我混乱内に支隊の任務を歩兵第五十六連隊に委譲 し、二八日先づ「コ」マンダ「ル」に伺い転進す。十一日水路輸送隊及左側支 隊として功績は師団長より賞詞を受く。</p>
三一	<p>「コ」マンダ「ル」に於いて第十五軍高橋參謀の指示に據り敵空挺部隊に備ぞ「ヤ ゲン」丘北側に位置す。</p>

<p>四 敵機動部隊の「マダヤ」西方地区進出の報により、連隊を「マダヤ」防衛の為、同地に前進せしめたるも、翌五日第十五師団の転進に伴い再び「マンタレー」に引返し、同日以降第十五師団長の指揮に入り「マンタレー」防衛に任ず。「マタヤ」出発と共に将来「マンタレー」運河の佈置を考慮し、鈴木少尉をシテ「マンタレー」運河を偵察せしめたるも所命の地点に帰還せず、生死不明となる。</p>	<p>五 「マンタレー」防衛に緊密なる関係ある飲料水等確保の為其の水源たる「マンタレー」運河取入口処理の為、西中尉の指揮する挺進隊一工兵半小隊歩兵一小隊を「セドウ」に挺進せしむ。</p>	<p>六 同挺進隊は目的を達成し、三月二十五日「キヤウセヒン」に於て部隊に復帰す。</p>	<p>七 敵南下部隊の先頭は「マンタレー」北端に迫り愈々「マンタレー」攻防戦の火蓋を切る。</p>	<p>八 連隊は当初「マンタレー」北東寄側は於て敵の南下防止に任ず。</p>	<p>九 夜連隊は帰団将来の企図遂行を容易ならしむる為「ミンゲ」の渡河点確保と渡河準備の為「ミンゲ」に転進を命ぜられ、山本高射砲大隊を伴せ指揮し、渡河準備並に「ミンゲ」渡河点の防衛に任ず。</p>	<p>一〇 第十五師団は再び「マンタレー」死守を命ぜられたる為、連隊を召致す。依て連隊は任務を山本高射砲大隊に移譲し「マンタレー」に前進再び其の防衛</p>
---	---	---	---	--	--	--

372

年月日	概	要
十九	<p>戦斗に任ず。 当時器材小隊の主力及連隊残置部隊（書類整理人員等）は「キマウセ」に位置せしむ。 敵は「マンタレー」北部及東西より逐次我を包囲し、我戦力は日一日減じ包囲圏は圧縮せらる。 連隊ハ主として敵戦車及徒歩部隊の進攻に備うる障碍物の構築及王宮側壁の補修等防禦に必要な作業に任ず。 敵は「マンタレー」「ミンゲ」街道をも封鎖する形勢となり連隊は第一中隊をして敵企図破砕に任せしむ。 第十五師団長は「マンタレー」を放棄し「ミンゲ」河以南の地区に於て敵を阻止すべき命を受け、先づ連隊に「ミンゲ」渡河準備の為先発を命令す。 連隊は即時一小隊を「ミンゲ」に先遣し、主力は同日夜「マンタレー」東南地区守備の任務を歩兵第五十六連隊に移譲し「ミンゲ」に前進し渡河準備を始めたるも敵の戦車を伴い一部は「ミンゲ」飯鉄道橋を渡り北進し、師団の「ミンゲ」に於ける「ミンゲ」河渡河撤退は困難を予想せらるるに到る。 朝敵は「ミンゲ」の総攻害を開始す。 連隊長は再び山本高射砲大隊及所在部隊を伴せ指揮し、「ミンゲ」の防衛戦</p>	
十七	<p>敵は「マンタレー」「ミンゲ」街道をも封鎖する形勢となり連隊は第一中隊をして敵企図破砕に任せしむ。</p>	
十八	<p>第十五師団長は「マンタレー」を放棄し「ミンゲ」河以南の地区に於て敵を阻止すべき命を受け、先づ連隊に「ミンゲ」渡河準備の為先発を命令す。</p>	

を開始す。
敵は東西兩方より猛攻を加え来り、二十日に入るや高射砲陣地は敵飛行機と戦車に依り潰滅す。

二十

第十五師団ハ早朝「マンタレー」を放棄転進を開始し、「ミンゲ」に集結したるも「ミンゲ」に於ける渡河及離脱は困難となりたるを以て同日夜「ミンゲ」を放棄し東北進し、更に「ミンゲ」河の上流に於て渡河を企図したるも敵は「マンタレー」運河及「ミンゲ」河と二重包圍を完成し到る処前進を妨害せらる。

二十一

夜師団長は遂に運搬不能の火砲、隊貨、及車両等の放棄を命令したるを以て連隊は「タモクソ」に於て重要書類及個人携行兵器の外携行不能の物件は全部焼却破壊し、同夜「マンタレー」運河包圍を突破し、二十二日朝「ミットウエホック」に到着し渡河を準備す。

同日師団司令部と連絡を失したるも連隊は第十五軍兵器廠及工兵第十五連隊の舟艇を使用し同地に逐次集結する諸部隊の渡河作業に任じ、其の終了と共に二十三日「キヤウセ」に伺い転進を開始す。

本渡河に於て二十二日舟艇の連隊は午前昼間夜により一部渡河を始めたるも敵の砲害により兵器の書類の一部を流失す。

二十五

「キヤウセ」に於て「ギヤウセ」東方ハ料」に於て第十五師団司令部との連絡

44

年月日	概要
四一	<p>なり、同日以降「ミヨキ」を経て「シヤン」高原に入り「シヤン」附近の作戦に参加す。</p> <p>「エンガン」(「ジヤン」高原)附近第十五師団防衛の為連隊は地形及補給路の偵察並に作業を命ぜられ、主力を以て駄牛道の構築を開始す。</p>
七	<p>第十五師団長の指揮を脱し「ナク」南方に於て歩兵第百二十八連隊長の指揮に入り、第三十三軍諸部隊の転進掩護を命ぜられ、即日行動開始す。同時第五十三師団阪田大尉の指揮する集成部隊(約七〇名)を配属せらる。</p> <p>所命地域に陣地配備を完了し、連隊本部を「ニヤンガウト」に置く。</p>
一〇	<p>「ラインデット」(「カロー」街道)附近に転進の命を受け前進を開始す。</p>
一六	<p>「ピニヤン」三部を残置し同地附近の警備に任せしめ。</p>
一九	<p>「インマビン」に於て歩兵第百二十八連隊と連絡成り、且同地に於て別路転進せる器材小隊を掌握す。</p>
一四	<p>器材小隊車両部隊は岩崎中尉の指揮を以て「キヤウセ」より行動を起し、転進を始めたるも「メイクテラ」の会戦後、我防衛陣地に到る。</p> <p>所弱点を作り「ランクーン」街道は遮断せられたる為車両の機動困難を極め、遂に敵の襲撃に遇い連隊自動貨車、器材小隊、自走器材及積載梱包は焼却放棄の止むなきに至れり。</p>

五

三二

該車両により輸送ヤレ連隊戦死者の遺骨の一部も敵砲弾に依り喪失せり。
歩兵第百二十八連隊は新に「ピンヤン」附近に於て「カロー」街道を転進す
る第三十三軍諸部隊の転進掩護の任を受け、工兵連隊は即日「ピンヤン」に
反転し、二十四日より主として「カロー」街道及鉄道の阻絶並に歩兵の陣地
要部の構築作業等に任ず。

第三十三軍最後尾部隊の転進に伴い、部隊は倒木・破壊・地雷埋設等の作業
を實施し、つづ「カロー」街道を「カロー」に向い撤退し
「カロー」西方約八料に於て第五十六師団に任務を委譲し、

四

歩兵第百二十八連隊と共に「カロー」に集結す。
同日歩兵第百二十八連隊及工兵第五十三連隊は「ビルマ」方面軍直轄として
「タトン」に前進の命を受け

七

「カロー」を出発行軍を開始す。
途中糧秣補給状況を顧慮し、各人二十日分の糧秣を携行す。
経路「ピンラウン」→「モンパイ」→「ロイカウ」(西北三料)→「ナンパレイ」
糧秣補給「ボウシイク」→「ケマビユ」患者は現在地に於て第五十三師
団第四野戦病院に入院せしむ。
歩兵第百二十八連隊は「モク」街道より「パファン」に前進工兵連隊は兼領を
經て「パファン」に前進を命ぜらる。

年月日	概	要
六一	「サルウイン」河を「ケマピユ」に於て渡河	
六	「ホツキ」(「パフン」東方)に於て渡河	
三	仁志出軍曹以下患者輸送隊人員と連絡	
一三	連隊主力は「パフン」に集結したるも「サルウイン」河送渡河後連日行軍の疲労と悪給養・雨天の為患者続出し、一部「パフン」への集結遅る	
同地に於て原師田復帰の命を受け、十五日同地出發「メチヨウ」に於て連隊集結し		
二九	「ピリン」河(「ナチ」渡河点)渡河	
七四	「ジビヤン」に到着し、約二ヶ月に恒る八百余料の行程を踏破し第五十三師団長の指揮に復す	
	当時に於ける連隊の戦力	
	連隊本部(器材小隊を併せ)	四五
	第一中隊	一五
	第二中隊の一小隊	一五
	第三中隊(一小隊欠)	三五
	矢器は携帯兵器及携帯器具の一部	
	尚師団長直轄として行動しありし第二中隊(岡小隊を欠き第三中隊坪田小隊	

属)は二月上旬(キマウセ)に於て師団に復歸し、其後主としてマコタウンに附近に於て師団の戦斗に参加し、四月上旬以来其の転進と共に工兵諸作業に任じありたる也。四月二十日頃「ピンマナ」附近に於て師団との連絡失し、師団主力と別行動しありて未掌握なりしも、村井軍曹の指揮する連隊集成隊約二十五名は同日連隊長の指揮に復す。

同日以降連隊は「シビヤン」に位置し、後方補給路の補修及び「ジビヤン」附近の警備に任じらる。

「ラングーン」周辺に於て敵に包圍せられある策集団の突破転進作戦掩護の任を受け連隊は十四日「シュエジン」に向い前進す。

途中道路を啓開しつつ、二十日「タパンセイクレ」(「シュエジン」南端)に到着、歩兵第百十九連隊と協力「シュエジン」河及び「マタヤ」河の渡河準備を開始す。

渡河作業の爲第三十一師団工兵一中隊及軍より渡河器材折疊舟、操舟機浮囊舟等を配属せられ夫々「タパンセイクレ」及び「ドンセイ」に於て掌握す。

敵中突破に成功せる策集団の先頭は逐次「シュエジン」河渡河点に到着、収容を開始す。

之より先「ビルマ」方面軍々備改変の準備を命ぜられ、第五十三師団は復員復歸の準備す。

年月日	概要	要
一八	<p>中旬策集団の転進も甘となりたる時 終戦に関する大命を拝し即時作戦行動は停止したるも依然策集団収容の渡河 作業は之を続行す。</p>	
二二	<p>連隊長田中大佐師団参謀長兼務を命ぜられ</p>	
三一	<p>任務を歩兵第百十九連隊長に移譲し、師団司令部に出頭。</p>	
三〇	<p>策集団工兵隊の一部に委ね「ドニセイク」以爾の水路輸送の為一部を「ドニ セイク」に配置し、主力は師団司令部所在地「ウインガン」に集結す。</p>	
五〇	<p>「ピンマナ」に於て師団司令部と連絡を失したる第二中隊長野田大尉以下は 「パファン」北方地区にて「サルウイン」河を渡河「チエンマイ」「バンコッ ク」を経て八月三十日「ウインガン」に於て本隊に復帰す。</p>	
九	<p>其の人員將校以下二十三名。</p>	
二四	<p>中旬師団は「シッタ」地区へ集結を命ぜられ、連隊は糧秣の補給輸送作業 を実施しつつ人員兵器を「シッタ」への水路輸送に任ず。</p>	
七	<p>武器引渡完了。</p>	
十一	<p>「シッタ」河渡二日「パヤジ」に収容せらる。</p>	
七	<p>工兵隊は「ワラ」に集結せしめられ、英軍工兵隊作業に従軍せしめらる。 当時連隊長は「パヤジ」英軍病院に入院。</p>	

昭三二一六	連隊作業人員百三十五名なり。十月末「ワウ」作業隊増加せられ、連隊は第二師団混成大隊長山崎少佐の指揮に入り前任務続行。
四一六	連隊長田中大佐退院復帰。
二〇	「ワウ」出發。
六三三	「ラングーン」 「アーロン」 「ココイン」 「ミンガラドン」 收容所に集結す。 復員に関する準備を命ぜられ、即時復員業務開始。
七三三	連隊長田中大佐第三十三軍司令部兼務を命ぜられ第一船にて内地帰還。
八一六	連隊先発者嘉納少尉同時帰還す。